
ホットニュース(平成11年度／第21号)

●今月の業界ホットニュース／～アーバン・ミレニアム～

今世紀は都市化の時代といわれているが、今ミレニアム全体が都市化の時代であったように思う。

商業の自由を求めて封建領主に対抗するために形成されたハンザ同盟などの都市同盟により、「都市の空気は自由」となり大商人を育てた。さらに大航海時代に富みの蓄積を経て、神の呪縛を解かれてルネッサンス・産業革命により、都市人口は爆発的に増加し、それを支える社会・経済システムを創り上げ、1,000万人を越える大都市をいくつも現出させている。商業・金融・産業資本の都市への集積が、時代ニーズにあったビジネスチャンスと雇用機会を絶えず生み出し、都市の増殖を支えてきた。しかし一方で、過度の集積・過密・肥大化は都市問題や地球環境問題を引き起こし「都市の空気は汚染」され、様々な課題を残しつつ今ミレニアムを終えようとしている。

情報化時代の幕開けとなる次のミレニアムに、都市はどうなるのだろうか？

時空を超えた情報空間・インターネット等に情報資本が蓄積され、市場形成・ビジネスチャンス・雇用機会が、現実社会空間より、精密に構築されるであろうバーチャルリアリズム空間に主導されるとすると、現実の都市空間における活動は大きく減少する？即ち、省エネルギー型のバーチャル都市の出現である。むろん消費・生活活動もバーチャル都市で補える部分は多い。と考えると、我々は都市化の時代から反都市化の時代の狭間にいるのだろうか？

我々の生きてるうちに、その方向性でも見る事ができれば面白い。

(代表取締役 堀田紘之)

●再開発に併せた駐輪場確保を

地球環境問題への対応や持続可能な都市づくりの必要性への認識が高まる中、交通手段としての自転車がにわかに注目を集めるようになってきている。これまでは、自転車というと、駅前等の違法駐輪で歩道をふさいでしまったり、歩道を疾走して歩行者と接触したり、自動車の脇を走行してドライバーから危険視されたりと、とかく路上の邪魔者扱いされること多かった。しかしこれらの状況も、見方を変えれば、駐輪場が不足していたり、歩道が狭かったり、自転車道がなかったりと、自転車のための施設が不十分であったことの裏返しにほかならない。そのため、近年ではこれら自転車向けの施設整備が公共の手によって進められているところであり、自転車利用を積極的に取り入れたまちづくりを進める動きもでてきている。

自転車利用者としての個人からみると、利用上最も大きな問題はやはり駐輪場所である。中心商業地、鉄道駅、出入り口が建物内に設けられている地下鉄駅周辺など、駐輪場を見つけることが困難な場合が多く、これが自転車の積極的な利用にブレーキをかけてしまう。一方、近年の都市の再構築、都心回帰の動きの中、街なかのあちらこちらで再開発が進められている。また、再開発事業についても交通結節点との一体的な整備や駐車場整備に関する補助対象の拡大、施設建築物のバリアフリー化、環境負荷低減、防災性の向上に対する補助など時代の要請に応えた各種補助制度の拡充が図られている。そのため、この機会に、再開発に駐輪場の整備や自転車共同利用システムが積極的に組み込まれるようなインセンティブやしくみがあればと感じるこの頃である。

(都市情報計画室 出ッ所幸子)

●PIARC(世界道路協会)第21回クアラルンプール本会議に実際参加して

世界道路会議都市内委員会 (C10) はクアラルンプール本会議に向けて様々な準備を行ったが、その1つがC10委員会開催のセッション後半に行われたディベートである。また、委員会セッションとは別に「交通と都市開発」に関するワークショップも開催し、研究を通じて収集

した各国の事例の紹介を行った。委員会セッション、ワークショップとも、参加者を巻き込んだ意見交換に多くの時間を取り、各国の専門家が意見交換を行ううえで、非常に貴重な時間となった。

委員会セッション後半では、「自動車利用者は公共交通改善の代価を支払うべきである」というテーマで賛成スピーカー2名、反対スピーカー2名、セッション参加者を含めたディベートが行われた。いくつかの反対意見も聞かれたが、参加者が欧州中心だったこと、交通専門家中心だった（産業界からの参加が少なかった）ことから、参加者意見投票では賛成が大多数を占める結果となった。しかし、今後の取り組みとして、自動車対公共交通という対立の図式から、よりよい都市交通の将来に向けて両者が協力して解決の方向を探っていくべきだ、との結論に達し、参加者全員の拍手によってセッションが閉会したのは印象的だった。

(都市情報計画室 三宅さおり)

●今年も鎌倉市の交通実験ボランティアに参加しました!

鎌倉市内で11月の1ヶ月間実施された「交通円滑化実験」のボランティアとして、弊社からも2名参加した。今年の実験は「パーク&バスライド」「パーク&レールライド」「環境フリー手形」の複合実験である。我々はそのうち深沢地区の「パーク&バスライド」実験ボランティアとして、駐車場内の誘導やチラシ配布を行った。

チラシは概ね好意的に受け取ってもらえることから、実験に対しては好意的で関心も高いようであるが、参加(利用)するとなると実際には、「深沢地区なら自宅のすぐ近くなので意味がない」「チラシを見てP&R駐車を探したが見つからなかった」「P&R駐車場からのシャトルバスがなかなか出ないのでやめました」などの意見であった。某新聞では「観光低迷で実験空振り」というタイトルで今回の実験を取り上げていたが、実際に我々が誘導を行った深沢地区の駐車場の利用率も12%と、見積りの50%以上を大きく下回る結果が出たようだ。原因は駐車場の位置が幹線道路から離れ、ドライバーに分かりづらかったことにあるらしい。

しかし一方で、実験に協力的な家族連れや若い方、ニュース等で既に実験概要をご存じの方がいたり、毎年継続することにより、少しずつ交通円滑化実験に対する理解の広がりを感じられたことも事実である。

昨年に引き続きのボランティア参加であったが、都市交通計画のコンサルタントとして、一市民として、今後もこのようなイベントに積極的に参加していきたいと思っている。

(第三計画室 黒坂剛、第一計画室 阿部朋子)

アルメックホットニュース (平成11年12月15日発行)

////////////////////